

猿樂圖式

全

213  
507

砂舞



香如堂文庫

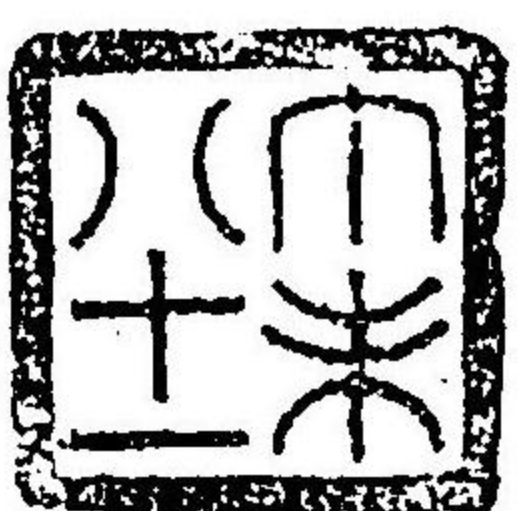
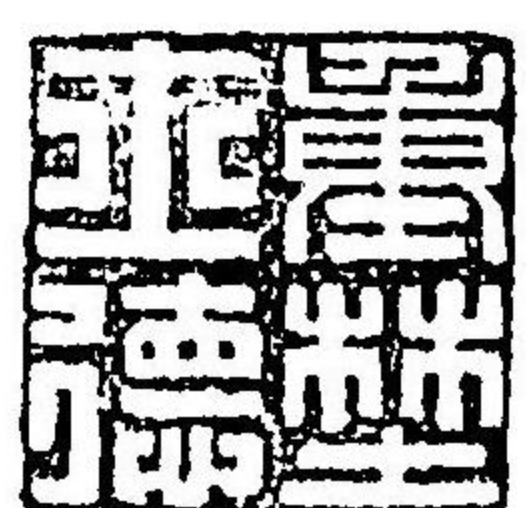
寄贈本



清福

丁未三月

成翁老人



延命冠者

第代

まじま

やま

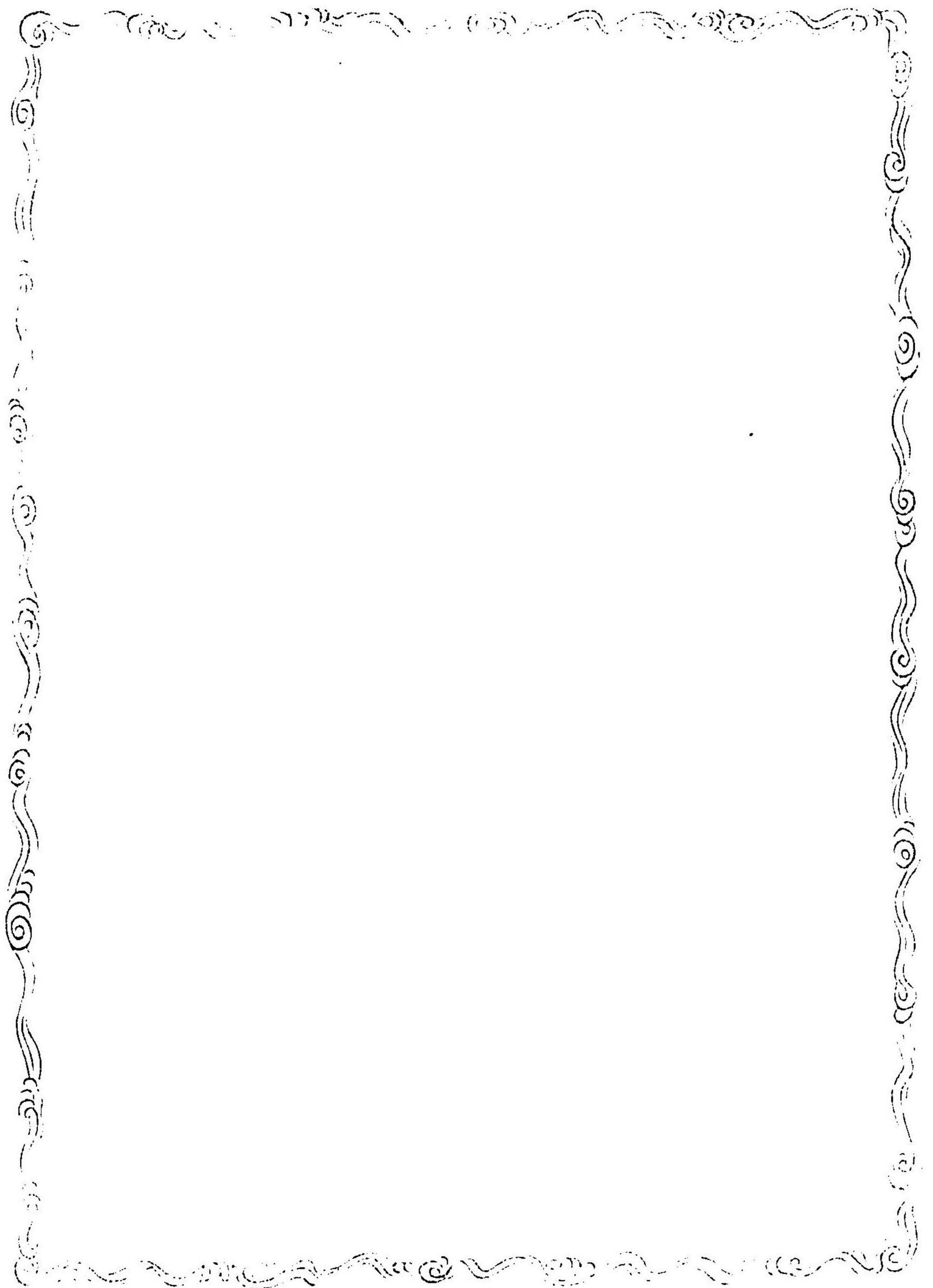
ふつま

松

君

新

たのめ



觀世  
金春  
喜多  
三度  
弓矢  
之  
立合





船舞又 観世  
志川の

序の舞

西海の波濤は越き  
西乃乃然のまはりを  
歎き踊りて朝も  
終りたるは青柳  
乃枝をほろろく  
此知たりたしをかき  
朽しをらへき



見るとはひり

いそ海乃

また鏡

意し

人の

新し

と吹流ん

志川の



夕波をうらめり  
長刀とるを  
巴波の紋あり  
をさしひ潮をけ  
たて悪風をふき  
かけ眼もくさみ  
んもさうらわく  
前後を忘る  
ほろりたを



祀年  
後シテ  
観世







車僧観世

車僧の鼻を  
ぬも大きな

まぶた

鼻の先

を

嵐ヶ子

負う

ら



車僧後仕

あゝこの山櫓うゑ

雪しるし

けしや乃

雪

けし雪中

山

車



いうに

車僧

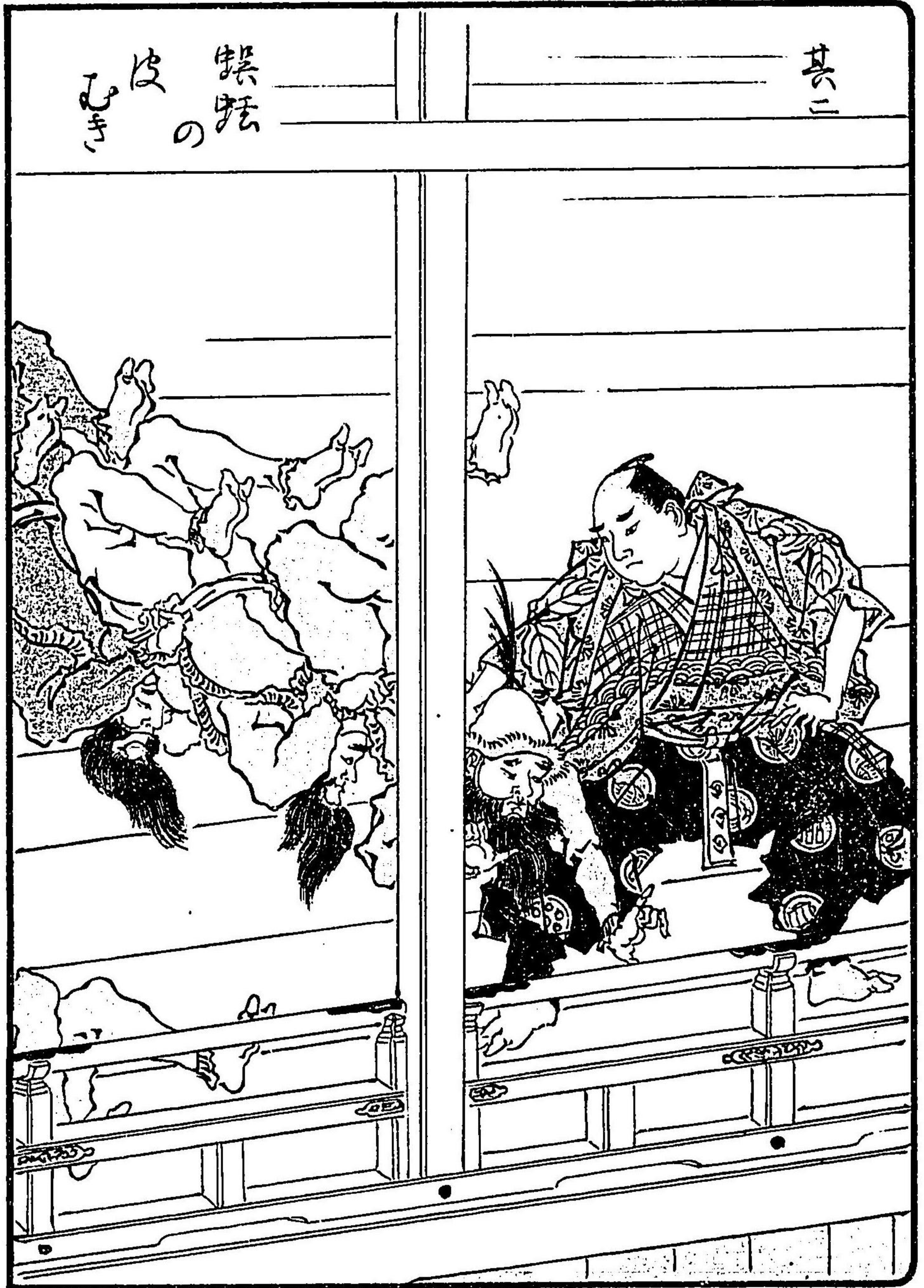
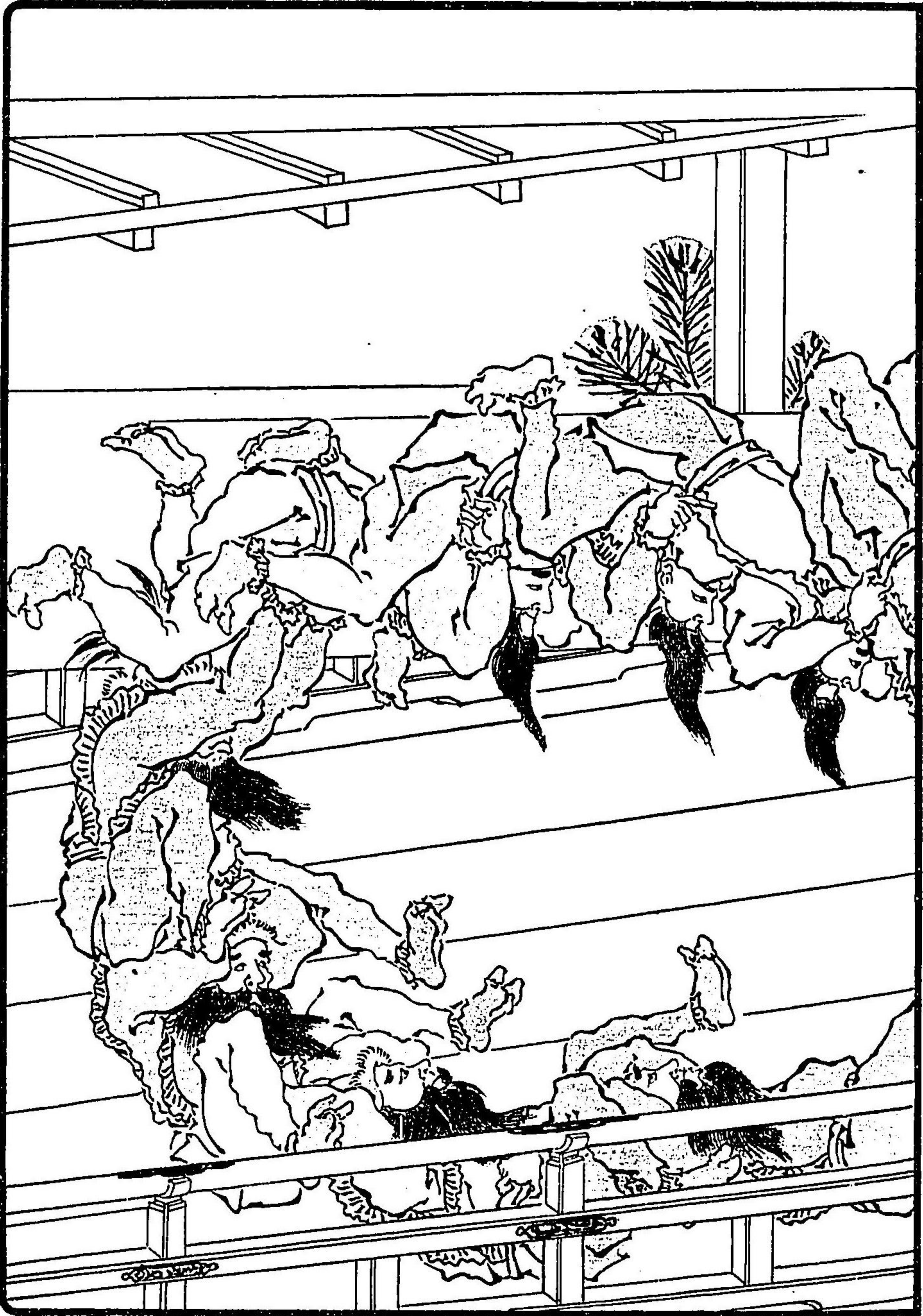


天魔  
鬼神も  
恐れ  
なす  
る



安宅 喜多流  
いかに割力  
こまねとて  
十一人乃  
山伏と  
所刀ぬき  
うけ  
よみかき  
みねいなる





豹狢 無言

大藏流

熱く人百々様おめきの  
者を入く野狢の心  
なまのいふとまふ  
昔奴も畜生におお  
あつたてて奴てひ



豹狢 後

シテ  
ハ  
ク  
イ



シテかろく汝等ふたゝる太席  
 冠者でいちい今生袴をあらうして  
 やりぞぞ主「ヤリ」シテ「解ふ」はら  
 と唯さあぬをシテ「イヤ」はら  
 冠者狐を林へめて「あて」はら  
 ヤリく次席冠者狐おのまも生袴  
 をあらうしてぬらち「ヤリ」を解て  
 くれぬうシテ「イヤ」青松系をあらうて  
 くまて「あて」はら「たの」若狐の  
 生袴を解くぬらち「イヤ」主「カ」  
 ぬらち「怖い」ぬのおのれ唯「あて」ぬそ  
 シテ「イヤ」チ「あて」冠者狐をあらうて  
 「あて」はら「あて」冠者狐生袴を  
 あらうて何とけむら「カ」ト「あて」  
 せ「あて」はらぬらち「あて」怖い



おの「ヤ」かせふ生袴をあて  
 ぬそけ「イヤ」謙とあらうては草と  
 たらうて「あて」主「あて」はら  
 は「あて」はら「あて」主「カ」  
 「あて」シテ「あて」はら「あて」  
 の「あて」はら「あて」はら「あて」  
 たらうて「あて」主「あて」  
 は「あて」はら「あて」主「カ」  
 「あて」はら「あて」主「カ」  
 「あて」はら「あて」主「カ」  
 「あて」はら「あて」主「カ」



流し  
 「あて」はら「あて」主「カ」  
 「あて」はら「あて」主「カ」

吼喚

踏流

ア、旨い白ひくれ

若狐も乃

とくろま

をしや

とくの

若嵐を

油揚平

してま



三本はしら

大流

三本の柱を

三人の者ともり

二本は

おた





法師の母日

のふりまら二十  
斗りの女にぬか  
りおそのおそい  
つまらぬ女にさ  
かいやうはまゆ  
たひよりぬかよの



栗焼 大巻

シテ  
火のよみよ  
一俵足車小  
や  
シテ  
きつとを



芥川 大巻

津乃  
風の  
難波入江

あつてえま

あーのえ

こと

た

か

えん



佐渡 瓶 西巻

主シイ

大

瓶

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて





髪櫓大花  
舊昔の髪  
のまわりは  
要害ありハ  
櫓かいま  
よつとさや

通圖 日

茶くとおられ  
うきぬ  
沈まぬ  
まうけり



糸宮 賢流

シテ  
アノ山

アノ山

この心アノ山

いふまにや

ほろろ

をいふまに



福の神 大巻

南無日本國中の

大神小神

別してハ松の尾乃

大明神一神酒の

あまより

福の神

たむらひ

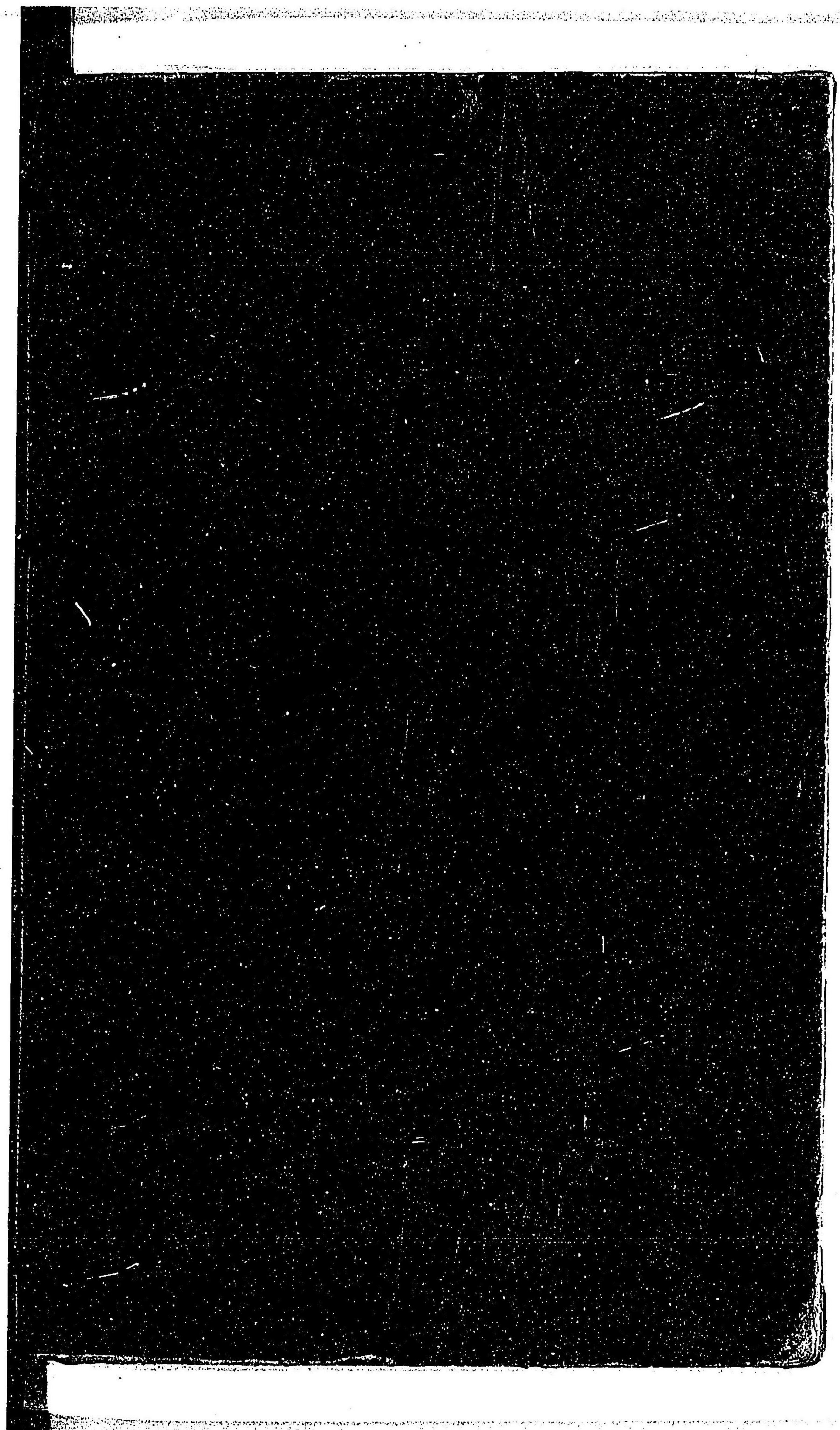


213  
501

伊藤義安

伊藤義安刻

213  
101



猿樂圖式

全



074995-000-2

213-501

猿樂圖式

静嘉堂文庫／編

M40

CEL-0919

